

[009] 九州大学附属図書館研究開発室年報 :
2004/2005(9)

<https://doi.org/10.15017/2833>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2004/2005 (9), pp. 1-63, 2005-06-01. 九州大学附属図書館研究開発室

バージョン :

権利関係 :



洋書物流会社COP (Co-op Online Pacific Inc.) 視察報告

井ノ上 俊哉*

〈抄 録〉

平成17年5月19日、大学生協が米国カリフォルニア州に設立した洋書物流会社COP (Co-op Online Pacific Inc.) の視察報告

Inspection report of COP (Co-op Online Pacific Inc.)

INOUE Toshiya*

1 はじめに

COP (Co-op Online Pacific Inc.) は、大学生協が1997年に米国カリフォルニア州に設立した洋書物流会社である。

平成16年4月1日の法人化以後、運営費交付金は毎年1%ずつ減額され、外部資金も容易には獲得できない等、大学の予算は厳しい状況にある。インターネット上で図書を低価格で販売しているAmazonからの図書購入についても、法人化後に教員からの問い合わせがたびたび図書館に寄せられるようになった。附属図書館では、Amazonと同等以下の低価格で、事務処理も複雑にならない入手方法を検討した結果、平成16年10月15日から大学生協のCOPからの洋書購入を開始し、現在に至っている。

COPからの洋書購入を開始してから半年を経過した平成17年5月に米国のCOP社を訪問・視察する機会を得た。

2 COPからの洋書購入の概要

COPは、在庫を一切持たず、全米の出版社および取次店のディスカウント情報及び在庫情報の徹底した追跡調査を行い、最も入手確実に低価格のルートから仕入れを行う。このような経営努力によって大学図書館へは、米国での価格(出版社定価)×納入前週末為替レート、マークアップ率1.0=マークアップ額0円で納入価格を実現している。支払方法も大学宛の請求

書による後払に対応可能なので事務処理の効率化を図ることができる。

3 COPからの洋書購入実績

平成16年10月から平成17年3月までの約半年間に九州大学全体で約590万円の購入実績があり、市内書店から購入した場合と比較して約159万円の経費節減効果があったと考えられる。

4 COP社訪問

COPは米国カリフォルニア州サンフランシスコ郊外の閑静な倉庫街に立地していた。



COP社の外観

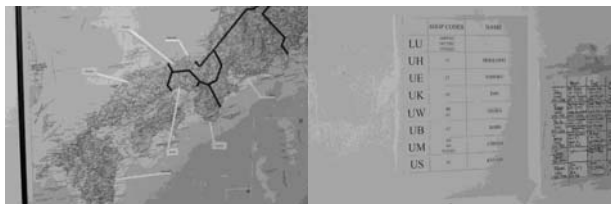
事務所に案内されると、ティノ副社長から業務説明を受けた。会社スタッフは、ティノ副社長を含めて正規役員1名、契約社員2名、パートタイマー3名の計6名である。

*いのうえ としや 九州大学附属図書館コンテンツ整備課図書情報係長 (〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1) E-mail: toshi@lib.kyushu-u.ac.jp

全員アメリカ人のスタッフなので、生協の広告及び日本の地図を事務室の壁に掲示して、自分たちも日本の生協の一員であること、COPに洋書を発注している九州大学が立地する九州の位置をスタッフに意識してもらうようにしていた。



生協の広告



九州の地図及びコード

5 COP社の業務の流れ

1) In-Bound

日本から入ってくる図書のオーダーを教員個人からのオーダーと図書館からのオーダーに分ける。取次会社「イングラム」の在庫データベースを検索し、確実に入手可能なものと入手不確実なものに分ける。「イングラム」に在庫がある図書については、そのまま取次会社から入手した方がよいのか、出版社から入手した方がよいのかに分ける。COPは在庫を持たないで、図書の在庫を持つ出版社または取次会社を探して、そこから入手する。出版社から入手した場合は値引き率が大きいので、納期の遅れに影響がなければ可能な限り出版社から入手する。取次会社から入手する場合は値引き率が小さくなるが、必ず納期が遅れずに図書が入荷される。

かつては、出版社へのオーダーをE-mail等の電子媒体で行っていたが、大手の出版社は1日1回だけとか、データを溜めてからでないとE-mailを開かない。このことによるタイムラグを防ぐため、オーダーをFAXで行い、すぐに出版社に電話をかけて、オーダーが届いているか、未出版か、入荷可能か、キャンセルされるのか等の追跡調査を行い、図書館からの問い合わせに備えている。(Update Status)

出版社の在庫情報が誤っていた場合や、オーダーに対する回答がない場合はバックオーダー

(再発注)となる。

時差が3時間あるニューヨークの出版社に東海岸時間の朝9時からオーダーできるように、COPでは朝6時から14時までオーダー業務を行っている。

2) Out-Bound

出版社や取次会社から図書が送られてくる。



九州大学附属図書館専用の出荷棚

箱は日本への出荷の際にリサイクルして使用する。図書とパッキングリストを照合し、破れていないか、オーダー番号やタイトルは合っているかを確認して棚に並べられる。正式な価格は郵便で送られてくる請求書で確定する。九州大学附属図書館専用の出荷棚が用意されていた。

生協の店舗毎に梱包して出荷する。現在、米国を週2回、水曜日と金曜日に出荷している。

6 COPの課題と展望

COPは米国で出版された図書しか取り扱っていない。九州大学では米国以外、特に欧州諸国で出版された図書の購入が洋書購入金額の過半数を占めているので、COPが欧州諸国出版図書の取り扱いを開始することを待ち望んでいると

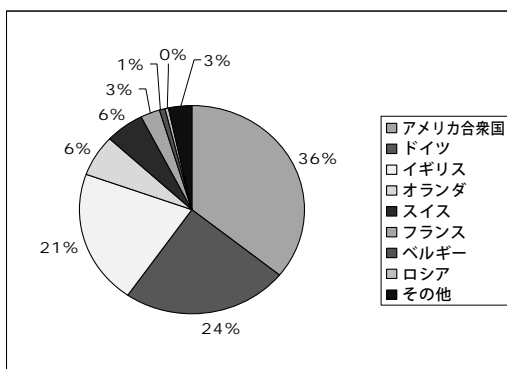


梱包され出荷を待つ図書

ころである。

現在、米国を週2回、水曜日と金曜日に出荷しているが、出荷のタイミングによっては図書がCOPに入荷してから出荷するまでに最大5日、関西空港で最大7日滞留することがありうる。(税関着が金曜日の午後、土日になった場合) このために米国出荷から大阪の洋書センター出荷までに平均8日を要し、発注から納品まで平均約4週間を要している。

平成17年5月現在、図書館からCOPに洋書の発注を行っている大学は九州大学のみである。COPから図書を購入する大学数及び取引量が増えれば、毎日出荷することも可能になり、発注から納品まで3週間程度にまで短縮することも可能となる。



九州大学2004年度 洋書 出版国別購入金額の割合

7 おわりに

今回の視察では、ティノCOP副社長に説明をしていただき、お話を伺うことができた。「日本の洋書輸入代理店で販売されている洋書の価格が米国内で販売されている価格に比べて高す

ぎる。」という素朴な疑問がCOPを設立するきっかけの一つになったそうである。

現在、米国以外の国で出版された図書についても安価に供給する準備を進めているところである。そのほか、新刊情報や在庫情報のデータベース検索や通知サービス、未入荷図書の契約継続・解除の問い合わせサービスを検討しているとのことである。

大学図書館側もCOPからの洋書購入を図書館の経営モデルの一つとして確立・定着するまでに発展させることを考えている。

最後に、ご多忙の中、米国滞在中にひとかたならぬお世話をいただきましたティノCOP副社長、資料提供等のご協力をいただきました大学生協九州事業連合、大学生協中国・四国事業連合の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。